

INFORMATION AND KNOWLEDGE NEWS

情報知識学会
ニュースレター

1991 4.1

7

情報知識学会事務局 発行 〒101 東京都千代田区三崎町2-18-5(京三会館) TEL03(3263)4645 FAX03(5275)1466 ISSN0915 1133

編集委員会からのお願い

鮮度の向上達成へ — ニュースレター編集方針の変更について —

本号よりニュースレターの編集方針を速報性に重点を置き、鮮度の向上を目的としたものに変更いたします。会員各位からの鮮度の高いニュースの御提供をお願いいたします。前回も、DTP原稿を主体とした編集を行いましたが、写真の貼り込み、レイアウト、埋め草の手当など、これまでの形式を踏襲したため目標を達成できませんでした。そこで今回は、オフセット用の原稿もそのまま掲載することにし、最終原稿には、1991年4月1日着の電子メール原稿まで含めて編集いたしました。原稿の締切りからお手元にニュースレターをお届けするまで1週間を目標としました。編集1日、印刷3日、発送2日、予備1日の予定です。それでも巷のSISには及びませんが、電子メールの普及があれば即時的な情報サービスが可能と考えております。御意見、御叱声、御協力をお願いいたします。

(岩田修一)

目次

編集委員会からのお願い	1
情報知識学会誌製作現場からの報告	2
パソコン通信「原子力情報サービスネットワーク」(愛称アトム・ネットワーク)について	3
情報知識学会拡大編集委員会議事要旨(案)	7
第4回CODATAアジアオセアニアデータソース調査会議議事メモ	12
国際会議ニュース	15
・ ICSTI Symposium	15
・ PROLA MAT92	18
学会カレンダー	20

情報知識学会誌の制作現場からの報告

凸版印刷株式会社 平澤道彦、坂田英俊

情報知識学会誌がようやく発行された。SGMLを使用するに至った経緯や SGML の概要については、米田先生の巻頭言と、石塚先生の報告にあるので、ここでは、実際に論文誌の制作に携わった担当者の苦労話を披露することにする。

1. 文書構造の設計

SGML で文書処理を行なうには、最初に文書構造を記述する DTD (文書型定義: Document Type Definition) を設計しなければならない。本来は、論文誌に掲載される論文、報告、解説、講演など様々な種類の文書を十分に分析し、共通な要素、固有な要素を洗い出し、各文書に共通な DTD を設計する必要がある。しかし今回は、分析の基となる文書の入稿に時間的な差があったため、2,3 の論文でしか文書構造の分析を行なえず、一文書ずつ DTD を設計することになった。

2. 入力

DTD に従ってタグ付けを人間が行うのは非常に大変である。そこで「投稿の手引」にあるような文章を、SGML のタグに自動的に変換するようにした。例えば、「◎表題」という行を表題の開始タグに置き換え、次の行を日本語の表題、さらに次の行を英語の表題と認識する。こうした変換規則を DTD の中で定義することによって、タグのついていない文書を、SGML 文書に変換することができる。しかし完全に自動変換するには至っておらず、一部の要素は手入力でタグを付けている。

3. L^AT_EX への変換

今回 SGML パーサ (文書解析プログラム) として、“Mark-IT” (英国: Yard Software Systems 社) を使用した。“Mark-IT” には解析された SGML データを L^AT_EX などの別のデータに変換する機能がある。これを使用して、文書解析と同時に L^AT_EX データを出力している。

4. 組版

上記のデータを L^AT_EX で組版して版下を作る

のだが、そのまま組んだのでは美しい組み上がりにならない。そのため、様々な L^AT_EX のコマンドを手で追加し、何度か組み直す必要がある。

厄介なのは、表、図、写真、外字である。L^AT_EX は、表と簡単な図は組版できるが、複雑な図や写真、外字は扱えない。通常、これらは本文とは別に版下を作り、後工程 (製版) で処理 (貼込み) するのだが、今回は貼込みなしで完全な版下を作ることを目指した。そこで、スキャナーでこれらを画像として取り込み、写植機上で電子的に合成し、文字と同時に印字することにした。

ここで問題となるのは原稿の品質である。どんな高級なスキャナーを使っても、原稿以上の品質にはスキニングできない。つまり、原稿の品質が印刷物の品質を決定することになる。今回の原稿の中には、曾孫コピーと思われる図や、ピンボケの写真などがあり、これらを少しでも良い品質に仕上げるために、スキャナーの設定を変え何度も取り直したり、手修正をする必要があった。

当社の写植機には数万個の文字が登録されているが、今回の外字の大半は写植機にない特殊な文字であった。そこで、まずこれらの文字を作る作業から取りかかった。できあがった文字は、図や写真と同じようにスキャナーで取り込み、写植機上で合成することにした。しかし、文字はスキニングすると、線が欠けたりギザギザが目立つようになり品質が落ちてしまう。そこで、実際に使うサイズより数倍大きいサイズで印画紙に打ち出し、それをスキニングして、写植機で印字するときに真のサイズに縮小するという方法を取った。

まだ他にも述べたいことはたくさんあるが、紙面の関係もあるのでこの辺で筆を置くことにする。

今、巷には華やかな出版物が溢れ、出版文化花盛りといった感があるが、その繁栄の影には、印刷会社で働く人々の地道な努力と献身的なサービスがあることを忘れないでいただきたい。

パソコン通信

「原子力情報サービスネットワーク」
(愛称アトム・ネット)について

(財)原子力工学試験センター
情報研究センター
服部尚弘

1 はじめに

原子力発電に関する情報について多くの人々は新聞報道以外には何も情報を知らないと思われるし、またそれ以上の情報を得る手段を知らない人々がほとんどと考えられる。原子力発電の情報を少しでも大勢の人々に身近に感じてもらうために、(財)原子力工学試験センターでは、通産省より委託を受け平成2年9月よりパソコン通信で原子力発電の情報を提供する「原子力情報サービスネットワーク(愛称アトム・ネット)」を開局した。以下に「アトム・ネット」の概要を紹介する。

2 利用の方法

パソコン(またはワープロ)を持っている人なら、通信ソフトとモデムを準備すれば誰でも「アトム・ネット」を利用できる。

通信ソフトの通信パラメータは下記条件に設定する。

通信速度: 1200/2400 bps

データ長: 8ビット

ストップビット: 1ビット

パリティ: なし

フロー制御: Xon/Xoff制御

通信手順: 無手順(図形データのみ
XMODEM手順使用)

漢字コード: シフトJIS 漢字

通信ソフトに自動ダイヤルの指示をして「アトム・ネット」に電話(03-5470-5511)を掛ければ、回線が繋がり、ユーザーID入力画面が表示される。ユーザーIDに"000"を入力し、リターンキーを押すと"リターンキーを押せ"の指示が出るので、再度リターンキーを押せばトップメニューの画面につながる。誰にでも利用して貰うため、ユーザーIDやパスワードの登録制度は採っていない。

情報は文字情報だけでなく、グラフ等の画像情報もあり、XMODEM手順対応の通信ソフトと図形ソフト「花子」を持っていれば利用できる。(市販の通信ソフトはほとんどがXMODEM手順に対応している。また、図形ソフトは「花子Ver1.0」のデータを読み込めるソフトでも可。例「一太郎Ver3」)

情報の提供サービスは24時間なので、何時でもアクセスできる。内容等で分からない点があれば、「原子力テレフォン質問箱」(Tel 0120-119433)に電話をすれば、質問、問い合わせに答えるようになっている。ただし電話受付は月曜から金曜(祝祭日を除く)までのAM10~12時と、PM 1~5時の間となっている。

3 アトム・ネットの特長

特長としてまず第一は、情報が文字情報だけでなく図面、グラフを含む画像情報が有る点である。原子力発電の情報は文章だけでは理解しにくいものが多く、絵があると分かりやすいものが多い。この点を踏まえて、図形ソフトを持っている方々へ、必要時には画像が見られるようにしてある。

第2の特長としては、発電所のトラブルが発生して通産省が報道発表を行った時に、ただちにそのプレス発表文を入力して、その日のうちにアク

セス出来るように準備することである。従ってトラブル報道は新聞とほぼ同時、場合によっては早く知ることができる。

4 情報の内容

アトム・ネットの情報は下記の7ヶの大きな項目で構成されている。

- (1) 掲示板
- (2) トラブル情報
- (3) 放射線等管理情報
- (4) 原子力一般情報
- (5) エネルギー一般情報
- (6) ニュースレター
- (7) 利用法

実際のパソコン通信の画面では、見たい内容の項目の番号を入力すると次のサブメニューが出るようになっている。情報の内容をサブメニューの項目に従い、以下に説明する。

・掲示板

- (1) ニュース（新聞より原子力に係わる大きな報道を拾いだし、1週間毎に入力する。）
- (2) イベント・行事案内（原子力関係の学会、団体等が実施する発表会等の行事案内）
- (3) トラブルニュース（発電所でのトラブル発生と、トラブルの原因と対策の資源エネルギー庁の報道発表を即日入力する。）

この掲示板の画面は1～2週間でメンテナンスされ、古いものは削除される。ただしトラブルニュースは「トラブル情報」の項に保存されている。

・トラブル情報

個別トラブル情報

- (1) 発電所別トラブル情報（平成元年度以降に発生したトラブルの発生時の報道発表文、原因と対策の発表文、事故評価尺度適用の発表文、および全体を取りまとめた参考資料を発電所別に表示。報道発表に図面添付の時は画像画面も準備。）
- (2) 年度別トラブル一覧表（年度の発生日順にトラブルを表示し、簡単な原因、対策、尺度評価値も表示。）
- (3) 主なトラブルのやさしい解説（年度別トラブルの内より主なものの数件を易しく解説をしたもの。）

事故故障評価尺度

- (4) 事故故障等評価尺度（尺度のレベル毎の基準値と解説及び運用状況を表示している。）

故障トラブル件数

- (5) 故障トラブル報告件数推移（年度毎のトラブルを法律対象と通達対象に分け、絶対値と1基当たりの数値を表示。グラフもある。）
- (6) 原子炉停止回数の推移（計画停止と計画外停止の回数を炉数当たりの数値で表示。グラフもある。）
- (7) 各国の原子力発電所停止頻度の推移（主要諸外国と日本の計画外停止の炉当たりの数値を年毎に表示。）

・放射線等管理情報

環境放射線モニタリング結果

- (1) モニタリング数値（地方自治体が測定した環境放射線モニタリングの結果を表示。）

放射線業務従事者被ばく線量

- (2) 線量当量（被ばく線量）推移（放射線業

務従事者の被ばく線量のデータを
年度別に表示。グラフも準備。)

放射性廃棄物

- (3) 固体廃棄物量推移 (ドラム缶の発生量、
保管量及び貯蔵設備容量等を年度
別に表示。グラフも準備。)
- (4) 発電所別固体廃棄物量 (発電所毎の貯蔵
量と貯蔵設備容量の現在値を表示)
- (5) 希ガス放出量推移 (炉型別の放出量を年
度別に表示。グラフも準備。)
- (6) 発電所別希ガス放出量 (最近 1 年間の放
出量を四半期毎に発電所別に表示)
- (7) 気体よう素放出量推移 (炉型別の放出量
を年度別に表示。グラフも準備。)
- (8) 発電所別気体よう素放出量 (最近 1 年間
の放出量を年度別に表示。)
- (9) 液体廃棄物放出量推移 (炉型別の放出量
を年度別に表示。グラフも準備。)
- (10) 発電所別液体廃棄物放出量 (最近 1 年間
の放出量を年度別に表示。)

・原子力一般情報

わが国の原子力発電の現状

- (1) 原子力発電所一覧 (稼働中の発電所の炉
型、出力、運転開始日等が表にな
っていて、場所を地図上に示した
グラフもある。)
- (2) 建設中及び建設準備中の発電所状況 (出
力、炉型、設置許可年月、運転開
始予定年月等が表示される。)
- (3) 定期検査中の発電所一覧 (毎月 1 日現在
で定検中のプラントを表示。)
- (4) 安全審査の状況 (新增設と既設プラント
に係わる審査状況を表示。)
- (5) 原子力発電所の設備容量推移 (炉型別設
備容量と基数を表示。)

原子力発電所設備利用状況

- (6) 設備利用率推移 (炉型別の年度利用率を
表示。グラフも準備。)
- (7) 月別設備利用率 (炉型別の利用率を月別
に表示。)
- (8) 発電所別設備利用率 (最近 4 年間の年度
別利用率を発電所別に表示。)
- (9) 各国の設備利用率 (主要諸外国と日本の
最近 4 年間の利用率と基数を表示)
- (10) 各国の平均停止回数 (停止を計画と計画
外に分けて 1988 年の値を表示。グ
ラフも準備。)

・エネルギー一般情報

日本

- (1) 一次エネルギー供給の推移及び需給見通
し (2010 年までのエネルギー需給見通
しを原子力、水力、化石燃料他に
分けて原油換算値で表示し、グラ
フも準備している。)
- (2) 年度末電源構成及び電力供給目標 (2010
年迄の電源構成と供給値を表示。)
- (3) 最終エネルギー消費・電力需要の推移
(1985~2000 年までのエネルギー消
費と電力需要を表示し、グラフも
ある。)
- (4) 年度末発電設備の推移 (1965~1989 年度
の発電設備を原子力、水力、火力
に分けて表示、グラフもある。)
- (5) 年間発電電力量の推移 (電力量を前項と
同じ要領で表示。)
- (6) 電源別耐用年数発電原価試算 (原子力、
水力、石油火力、LNG 火力の発電
原価を試算したものを前提条件と
一緒に表示。)

世界

- (7) 世界のエネルギー消費の推移（1975～1988年の消費量推移を原子力、水力、化石他に分けて比較。）
- (8) 主要先進国のエネルギー供給構造比較（各国の輸入依存度、石油依存度等を百分率で比較、グラフある。）
- (9) 主要国のエネルギー供給構成（1988年の供給の構成比率を表示。）
- (10) 主要国の発電電力量の構成（発電量を前項と同じ要領で表示。）

・ニューズレター

- (1) 最新版
- (2) 既刊版
- (3) 前号までの目次

原子力を主体としたエネルギー一般の話を易しく書いたパンフレットの紹介です。

・利用法

- (1) 操作説明
- (2) 取り扱いに関する注意（図形情報へのアクセス法）

初めてアクセスした人への操作説明です。

5 おわりに

開局する前は、内容が堅いものばかりで、はたして何人の方々が見てくれるかと心配しましたが、200件を超す日もあり大勢の方に利用して貰っている。世の中のパソコンブームに便乗したことで、エネルギー問題に関心を持っている人が大勢いることによると思われる。

今後とも提供情報の内容の充実、アクセスポイントの全国化等利用し易い「アトム・ネット」にしよう心掛けたい。

CEC-CODATA Workshop キャンセル

CEC-CODATA Workshop "Materials Data for CAE"
Petten, March 19-22, 1991

Note for the Attention of Registered Participants and other Contributors to the Workshop

Dear Colleague,

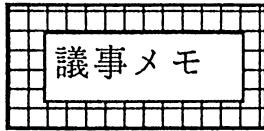
The Organising Committee regrets to inform you that it has with much reluctance decided to suspend further preparation of the workshop for the planned time and to postpone it to another date which will be fixed as soon as the circumstances allow. This decision was unfortunately necessary since, despite a largely sufficient number of pre-registrations available in January, the number of confirmed registrations is by far too small to go ahead. The Organising Committee is moreover faced with an increasing number of withdrawals, many of which are due to travel restrictions in connection with the international crisis.

It will under these conditions not be possible for the workshop to reach the objectives which both CODATA and the CEC expect it to achieve. The Organising Committee thanks all those who have already contributed by the preparation of abstracts and papers or have sent contributions; it will save all written material so far received and the mailing list for re-use. Received registration fees will be refunded. We hope to inform you in due course of a new date.

On behalf of the Organising Committee

Reuven Granot Hermann Kröckel





1991-3-6 (JSIK/FI) ZAT\$0-1A
筑波大 藤原譲, 東海大 米田 幸夫

情報知識学会拡大編集委員会議事要旨(案)

日時: 1991年2月28日 18:00~21:20

場所: 東京大学山上会館203会議室

出席者: 岩田修一委員長(東京大学), 芦崎達雄(JISCST), 石塚英弘(図書館情報大学), 岡 健太郎(大日本印刷), 菅原秀明(理化学研究所), 曾我部 健(三菱総研) 高橋靖明(凸版印刷), 中島二一(奈良大学), 根岸正光(学術情報センター), 藤原譲(筑波大学), 安沢秀一(明海大学), 米田幸夫(東海大学)

- 配布資料: 1. 情報知識学会再建WG報告(1991-2-28)
2. 情報知識学会活動計画(藤原)
3. 情報知識学会論文誌創刊号(1990-12-20発行)

議事概要

1. ニュースレター

No. 6が発行され, 会員に届けた事が報告された.

次号より速報性に重点を置き, ページ数や体裁に拘らないことにし, ワープロ出力・offset印刷とする.

今後は必ず隔月1日発行, すなわち2月, 4, 6, 8, 10, 12月の1日発行とする. また, 必要なときはその間に発行することとする. 次回予定は4月1日とする.

2. 論文誌

2. 1 経過報告.

資料3に依り, 創刊号は予定より遅れたが, 12月20日付けで無事発行され, 本邦初の完全SGML(貼込み無し)であることが報告された.

ここに至るまでに大変な努力をされた石塚委員, 同夫人はじめ関係の方々に謝意が表された. また資料1により印刷技術及び経費の説明があり, 絶大な貢献をしていただいた凸版印刷にも謝辞が述べられた.

なお, 協議の上, 論文誌創刊号は理事と編集委員に3冊ずつ届けることとした.

2. 2 別刷

別刷は今回に限り全て表紙をつけることにし, 10部は無料で進呈し, それ以上は有料とする. 今回の別刷りの価格は以下の通りとすること, および第一著者には, 論文誌一部を贈呈することが併せて承認された.

50部単位で1部当り	1~5頁	100¥
	6~10頁	150¥
	11~15頁	200¥
	16頁以上	250¥

2. 3 今後の発行について.

今後少なくとも年一回発行することにし、第二号は本年の10月発行を予定し、原稿は7月末締切(厳守)とする。

論文投稿者は、創刊号の著者の周辺から広げるのが一つの方法である、情報学シンポジウムからも拾えるものがある、などの意見があり、担当で検討することとした。

3. 今後の学会の運営と活動について.

資料1および2により、学会の発展のための方策が検討され、情報知識学の振興と会員増強を重点項目として活動を再開することになった。

3. 1 活動の基本方針.

活動の基本方針は次の通りである。

- 1) 学会のidentityを明確にする。
- 2) 目に見える具体的実績を出す。
- 3) 各々の業務と活動の分担を決めて責任体制をとり、できるところから実行する。
- 4) 現状では事務局の負担を軽減するため、当面、各委員会や部会の業務はできるだけ分散処理する。
- 5) 各委員会の業務は委員長および副委員長が責任をとる。同時に、全理事を各委員会の業務に参加願う。

この方針に基づき、急を要する業務として、以下の項目が具体的に検討され、分担が決定された。

3. 2 編集委員会関係

芦崎(論文)、長瀬(ニュース)両委員が担当し、暫くの間、岩田現委員長および石塚委員が補佐する。

ニュースレターは偶数月、すなわち年6回発行する。論文誌は、年一回以上発行する。次号のニュースレターの4月、論文誌の10月発行のためただちに準備を進める。論文誌の経費を見積り、適切な案を総務・会計委員会と協議する。

3. 3 総務・会計委員会

藤原副会長が総務・会計関係を総括する。

根岸委員長が安沢委員と協力して、事務局と連絡し、以下のことを次回(4月24日)までに把握し、資料を提出する。

3. 3. 1 発会から現在に到るまでの会計報告.

- (1) 収支決算
- (2) 個人・法人会費の納入状況
- (3) ニュースレター・論文誌の経費実績。
- (4) 会議費
- (5) 部会経費
- (6) 事務局への委託費(未払い分を明示)

(7) その他

3. 3. 2 91年度の予算の作成.

特に、下記を明確にすること.

- (1) 法人会費の見込み（藤原副会長と連絡のこと）
- (2) 論文誌関係（編集委員会と連絡のこと）
- (3) 事務委託費の見積
- (4) 会議費
- (5) 部会経費（特にコデータ部会、部会長と連絡のこと）

3. 3. 3 個人会員勧誘リスト

- (1) 過去に準備した個人会員勧誘のリストを集積・提出する.
- (2) その整理を含め、新たな個人会員勧誘のリストの作成の原案を提出する.

3. 4 企画委員会

江成委員長、高橋副委員長が引続き担当する.

データベースフェアーと連携して成功した講演会などの活動を続けるとともに、ワークショップや講習会その他についても積極的に取組む.

広報と法人会員勧誘のため、関連する業界の企業、団体のリストを作製する.

4. 会員増強

会員増強は副会長および総務・会計委員会の所管とする. ただし、当面の実務は以下のように処理する.

4. 1 法人会員（特別会費）

- (1) 特別会費の約束を得ている法人会員の事務処理を進める.（担当 藤原副会長）.
- (2) 特別法人会員候補企業のリストを準備する.（担当 藤原副会長）.

4. 2 法人会員

- (1) 過去に準備した法人会員勧誘のリストを集積・提出する. その整理を含め、新たな個人会員勧誘のリストの作成の原案を提出する（担当 藤原副会長）.
- (2) 法人会員勧誘のため、関連する業界の企業、団体のリストを作製する（企画委員会）

4. 3 個人会員

- (1) 過去に準備した個人会員勧誘のリストを集積・提出する. その整理を含め、新たな個人会員勧誘のリストの作成の原案を提出する（担当 総務・会計委員会）.

4. 4 会員増強運動（担当 全員）

- (1) 関連するイベントなどの機会を捉えて全員で努力する.
 - (2) 全会員あてに論文誌創刊号に申込書を入れて、会員増加をお願いする.
 - (3) 論文誌創刊号に申込書を入れて、理事と編集委員に数冊づつ届けるので活用する.
- 不足の時や大きなイベントのある時は事務局に連絡する.

5. 事務局

5. 1 委託業務の内容

事務局はこれまで通り日制に委託する. 委託業務の内容はほぼ以下の事項とし、詳細

は各委員会および藤原副会長と協議し決定する。

5. 1. 1 共通事項

- (1) 日常的連絡、書類作成、発送など
- (2) 会議連絡
- (3) 会場準備
- (4) 議事録の作成（一部分）
- (5) 部会関係
- (6) その他

5. 1. 2 編集委員会関係

- (1) ニュースレターの編集・発送
- (2) 論文誌関係

5. 1. 3 総務・会計委員会関係

- (1) 会員管理
 - (i) 個人・法人会員名簿の整備
 - (ii) 請求書発行
- (2) 会計報告
- (3) 会員増加に伴う事務。

5. 1. 4 企画委員会関係

5. 2 当面事務局に依頼する事項。

- (1) 論文誌（とニュースレター？）の発送。
- (2) 理事・編集委員へ論文誌を3冊発送する。これに、会長名の挨拶状、この議事要旨（案）および理事・編集委員名簿（Tel.Fax.入り）を同封する。

6. 運営方式

(1) 理事会は少なくとも年2回開催する。総会も少なくとも年一回開催し、学会の運営を軌道にのせる。

(2) 通常業務の処理のため、担当者会議（仮称）を会長、副会長、委員長、副委員長など（必要なときは部会長を加える）で構成し、二ヶ月に1度程度開催する。

(3) 次回は4月24日（水）18：00よりとする。

(4) 理事会開催の日時は次回担当者会議で決定する。

(5) 次回の担当者会議の予定議題および原案作成者は次の通り。

- 1. 年間スケジュール作成（原案作成：総務・会計委員会および藤原副会長）
- 2. 理事会日程および議事次第（原案作成：総務・会計委員会および藤原副会長）
- 3. 総会日程および議事次第（原案作成：総務・会計委員会および藤原副会長）
- 4. 予算、決算について（原案作成：総務・会計委員会および藤原副会長）
- 5. 学会運営について（原案作成：各委員会および藤原副会長）

以下の事項を含む。

- (1) 事務局への業務委託事項
- (2) 理事全員が各委員会に分属願う原案作成

6. 編集委員会関係

7. 企画委員会関係
8. 会員増強チーム結成について（原案作成：総務・会計委員会および藤原副会長）
理事・編集委員，全員が協力する体制を作りたい。
9. その他

以上

追記： この議事要旨（案）は米田および藤原が作成した。 当日の会議での表現と異なる部分もあるが，内容はほぼ協議の結論を反映していると考えている。

電子メールから

Wind from Oregon

-Oregon State university proposes Microbial Germplasm Database (MGD)-

In the world there are more than 300 service culture collections which collect, preserve and distribute microbial strains. In addition to them, a hundred laboratories preserve microbial strains and their data. Scientists need a tool with which they can utilize those data scattered over the world.

The MGD system will be a database system of distributed heterogeneous component databases. The MGD will be based on the Sybase Open Architecture. The open client/server interfaces provided by Sybase allow us to tie together distributed heterogeneous component databases and to provide accesses from various remote client sites. The MGD users will be able to access the system by text-based form interfaces for VT100-equivalent terminal and through state-of-the-art graphical user interfaces as well.

Workshop:-- Regularities, Classifications and Predictions of Advanced Materials

Como, Italy, April 14 -- 16, 1992

This Workshop will cover theories, techniques and applications of materials prediction. The topics to be covered will be --

- regularities in materials
 - prediction of materials which would have predefined physical, chemical and structural characteristics
 - pattern recognition problems as relating to materials science, including rules for structural chemistry
 - classification schemes for material phases.
-

CODATA部会から

The Fourth Meeting of CODATA Task Group on the Survey of Data Sources in Asian-Oceanic Countries --Brief Record--

The Fourth Meeting of CODATA Task Group on the Survey of Data Sources in Asian-Oceanic Countries was held at Olympic Youth Hostel, Seoul, Korea, on 31 January and 1 February, 1991. Twenty-nine participants got together not only from China, Japan and Korea but also from India, Indonesia, the Philippines, Taiwan, and Thailand. The participants' list is shown in Appendix 1. It was a pity that we could have no participant from Australia, Malaysia, and Pakistan, and also that Prof. WESTRUM, Edgar F., could not attend owing to the unfavorable condition of his health.

At the beginning of the Meeting, at 9:02 on Thursday 31 January, 1991, Prof. JHON, Mushik, Chairman of the Organizing Committee, made his welcome address. He expressed his gladness for having such an important meeting in Seoul, the most exciting city in the world, with regret of missing two important persons, the late Prof. OSUGI, Jiro, and Prof. WESTRUM, Edgar F., Jr. He then thanked to Dr. YANG, Young-Kyu, and his staff for the preparation for this Meeting, and to three Korean Organizations which supplied financial support.

Prof. TASUMI, Mitsuo, Chairman of the Task Group, then made a Chairman's address. Showing a page's document, he reviewed the extension of membership, and the publications from the Task Group in the past year.

Immediately after his address, followed seven sessions of oral presentations with pre-distributed documents by 25 speakers until early in the afternoon of the next day. Their schedules are described in Appendix 2.

The discussion on the future activities of the Task Group began at 15:00 on 1 February. There were five major topics: (1) Proceedings, (2) Updating of the Directory, (3) Budget of the Task Group, (4) Next Meeting, and (5) Future activities (1993 and on).

(1) Proceedings

The manuscripts for this Meeting had been, through the Organizing Committee, sent to Prof. WESTRUM, Editor of the Proceedings of the Fourth Meeting of this Task Group, who had already sent galley proofs to the corresponding speakers before the Meeting. The completed galley proofs would be sent back to Prof. WESTRUM before long. Profiles of co-authors should be sent to Prof. WESTRUM by themselves.

(2) Updating of the Directory

The updating and enlarging of the Directory of Data Sources, most important expected fruit from the Task Group, were confirmed to be on process. Its status in each country was reported as follows:

<u>Country</u>	<u>Status</u>	<u>Number of entries</u>
<u>Updating</u>		
China	Completed	110
Japan	In progress	ca.100
Korea	In progress	105 (Being translated into English)

<u>Enlarging</u>	
India	Completed and partly in process ca.80
Indonesia	Completed 36
the Philippines	Completed 100
Taiwan	Almost completed 11
Thailand	Completed 56

The Chairman noted that our purpose was to collect the databases of factual data, and those containing only bibliographic data should be omitted. He also stated that he would ask the absent countries—Australia, Malaysia, and Pakistan—whether they intend to join the survey, and, if so, the status of the progress. Prof. IWATA, Shuichi, asked what recording media and format were used in each country. Although several different types of personal computers were used in the eight countries present, it was found that their formats are convertible and would cause no interchange problem.

Who will be responsible to collect and to edit the entire information for the Directory was the next issue for discussion. Prof. JIANG, Chusheng, commented that Prof. WESTRUM would be glad to do as he had been. But this was thought to be a little optimistic because he was not in good health. After some discussions it was agreed that we would have two or three co-editors in addition to Prof. WESTRUM. Prof. HU, Yaru, Prof. IWATA and Dr. YANG were nominated. Prof. HU and Prof. IWATA both accepted, but Dr. YANG reserved his answer for a couple of days. (Later, Dr. JUNG, Yundae of KIST was appointed instead of Dr. YANG.)

It was confirmed that the documents and media for the Directory from the Philippines should be sent to Prof. HU, and those from Australia, India, Indonesia, Malaysia, Pakistan, Taiwan, and Thailand, to Prof. IWATA.

Prof. IWATA noted that the guidelines for recording on the media, for the quality control of data, would be sent to each country which he was in charge of.

(3) Budget and (4) Next Meeting

These two items were closely related and were discussed together. The Chairman first noted that the Task Group had US\$ 1000, for this year and would have US\$ 4000 in addition for 1992. He asked the Task Group if it would be appropriate to spend the whole amount US\$ 5000 for the next Meeting. After some discussion, it was decided to do so.

As to the venue of the Meeting, Australia had been the most hopeful candidate at the end of the preceding Meeting held in Kyoto last year. Nobody from Australia being present at this time, the intention of Australia was not clearly known. According to the recent telefax communication between the Chairman and Mr. MITHEN, Bernard Joseph, who attended last Meeting, this issue was in the hands of his senior Mr. GARROW, C., and about two months would be necessary to get a concrete answer. Other possibilities were also sought as follows:

- Beijing, August, 1993, with the 13th International CODATA Conference
- Taipei, March-April, 1993
- Jakarta, June-July, 1993 or later

There were some discussions how we would decide. It was noted that in

some of the countries national budget for a new project must be applied for well in advance—about two years before the event. It was also commented that going abroad twice a year for CODATA (TG Meeting and International Conference/General Assembly) was sometimes very difficult. Prof. JIANG stated that if Australia refused China would gladly accept. Although the final decision was postponed, next Meeting was most likely to be held in Beijing without symposium during the International Conference period in 1992.

(5) Future activities (1993 and on)

As the Task Group will be terminated in 1992 if we raise no action to CODATA Assembly, comments on whether we should apply for the renewal of the Task Group after 1992 were requested for. Dr. YANG first commented that this Task Group had been very helpful to Korean scientists and should be continued. Prof. KOLASKAR also commented that the Task Group had been stimulous and helpful to identify the useful data in the Asian-Oceanic Network, and that it should be continued. He also mentioned that the data were input at present in limited regions and more of them should be introduced from the developing countries to the developed countries. Dr. SAONO, S., opined that more emphasis should be put on how to manage and collect the data on natural resources—petroleum and forest. He mentioned the importance of data on environment and gene construction, and suggested a training program on the management and meaning of data. Dr. TAN, Rudy H., said that the Philippines had a lot of factual data of rice, etc., under the assistance of JAICA, USA, and UNDP, and he thought they should have more means to develop the data activities in their own country. Dr. WU complained of too frequent meetings for CODATA activities and suggested to have the meetings of International Conference and the Task Group every other year utmost.

Several other comments followed, but the subject of discussion was gradually entering the domain of general purposes of CODATA rather than the specific items which the Task Group is regarded as being in charge of. Prof. TSUGITA, Akira, indicated the misunderstanding some of the participants might have that the term of the Task Group is limited and its extension is subject to the General Assembly's approval, presenting the purpose, contents of its planned activities and required budget. In conclusion it was agreed by the Task Group to submit, at the next General Assembly, a proposal of renewal of the Task Group with more concrete purpose including, for example, the tasks on environmental data and data network. In other words the Task Group hoped that its title would remain but its objective would be slightly changed. Prof. KOLASKAR and Dr. SAONO were requested to send their comments on this issue to the Chairman within this year. A similar request would also be sent to Australia from the Chairman.

The Meeting was closed with success at 17:18, Friday, 1 February, 1991.

Appendix 1: List of participants

Appendix 2: Schedule of the presentations

Information, la quadrature du cercle *Squaring the information circle*

13 - 15 mai 1991
May 13 - 15, 1991

Nancy, France

à l'invitation de
hosted by



sous le patronage du
sponsored by

Ministère de la Recherche et de la Technologie
Délégation à l'Information Scientifique et Technique
France

GENERAL INFORMATION

Venue and access

The symposium will be held at INIST, 6 km from downtown Nancy which can be reached by road (see enclosed map), by train, or by air (Nancy-Essey airport). Nearest international airports: Paris (350 km), Strasbourg (150 km), Luxembourg (110 km).

Working languages

English and French with simultaneous translation.

Registration

Registration fee includes attendance at the two-day symposium, coffee breaks, coach service morning and evening from the hotels to INIST and return, the welcome cocktail at INIST on Monday, May 13 and the reception at City Hall on Tuesday, May 14. Lunches are not included in the registration fee.

Due to the limited number of places, there will be no refunds for cancellations received after April 15, 1991.

Accommodation

Blocks of rooms have been secured for those attending the symposium at several hotels in downtown Nancy. To ensure that you get the accommodation of your choice, it is advisable to reserve before April 15, 1991. Please note that the hotel booking form should be sent, together with a deposit cheque, directly to Palais des Congrès and not to the symposium organizers. All needed details of your hotel accommodation will be mailed to you by Palais des Congrès.

Discount on French railways

If you plan to travel by train, please check the box provided on the hotel booking form and Palais des Congrès will send you a "congress slip" which entitles you to a 20 % discount on French railways. This discount is valid for tickets purchased in France and for travel in France only.

Lunches

On Monday and Tuesday, May 13-14, lunch will be served at INIST for participants. Lunch reservations must be made at the time of registration in the space provided on the form and payment added to the registration fee. Price per lunch is 60 FF.

Squaring the Information Circle

For its 40th anniversary, ICSTI is organizing an international symposium; this symposium will be an opportunity to reflect on the world of specialized information as it is today and as it will be tomorrow.

Over the last four decades, the world of specialized information has been subjected to a fast-paced series of drastic transformations. And first, the skyrocketing evolution of technologies has had a strong impact on the way information is collected, stored, processed and disseminated. Technological evolution is by definition a never-ending process. Therefore one of the major questions the actors will have to answer in the years to come will most certainly be: is economically viable medium-range planning possible with such "here-today-gone-tomorrow" technological options? At the same time, users feel the influence of those very same technological developments and voice their needs for more sophisticated and specialized information products. The attempt to integrate tools and contents within multimedia workstations illustrates this new trend and shows the prevailing concern for a better control of data flow and storage to avoid the pitfalls of an information glut.

This evolution will have an impact on the various partners of the information transfer chain and will call for a reshuffling of roles. The relationships between authors and publishers are changing and will change even more in the years to come with the development of electronic publishing techniques. There is no longer a distinct boundary between the role played by the producers of primary, secondary or tertiary information and this will no doubt have some repercussions on production and distribution cycles and on the whole range of products and services offered.

For ICSTI, the period of transition we are currently going through gives us a perfect opportunity for a timely discussion of the problems involved. The first session of the symposium will address those problems while the second and third sessions will review the new needs, tools and products and present some examples. The topics covered will include trends and developments in the field of intelligent interfaces, expert systems and knowledge bases, and audiotex techniques. The potential role of information as a tool for scientific planning and decision making for industries will be also discussed. Finally, the symposium will conclude with a round table discussion featuring representatives of the main sectors of the information chain.

MONDAY 13 MAY, P.M.

14.15 Welcome Address

André Rossinot, Mayor of Nancy and Member of the French National Assembly, President of the District of Nancy, Former Minister

Opening Addresses

14.25 H. Edward Kennedy, BIOSIS, USA, President of ICSTI

14.35 A Representative of the Commission of the European Communities

SESSION 1 : SHUFFLING THE INFORMATION ROLES

Chairman: Nathalie Dusoulter, INIST, France

15.00 Introduction by Chairman

15.10 Electronic Publication Systems of the Future. Erich J. Neuhold, Director, Institute for Integrated Publication and Information Systems, GMD mbH, Germany

15.50 Of Hosts and Guests: An Examination of Present and Future Relationships Among Hosts, Online Service Customers, and Database Producers. Harry F. Boyle, Chemical Abstracts Service, STN International, USA

16.30 Coffee Break

17.00 Information Products: What are the Real Needs? Nicolas Grandjean, Manager, Information Services, Synthélabo, France

17.40 Discussion

18.00 Welcome Cocktail hosted by INIST

TUESDAY 14 MAY, A.M.

SESSION 2 : NEW NEEDS, NEW TOOLS, NEW PRODUCTS - I -
Chairman: David Russon, British Library, United Kingdom

- 9.00 Introduction by Chairman
- 9.10 How to Improve Access to Existing Information Products and Services?
Pierre Buffet, Scientific Director, International Relations, Questel, France
- 9.35 Future Requirements on Retrieval Systems for Factual Databases.
Andreas Barth, Deputy Director, Central Department of Information Technology and Systems Development, FIZ Karlsruhe, Germany
- 10.00 Expert Systems, Expertise and Experts; their Contribution to Information Services.
Barry Mahon, Managing Director, Infotop S.A., Luxembourg
- 10.25 Evaluating the Impact of GRATEFUL MED Using the Critical Incident Technique.
Elliot Siegel, Assistant Director for Planning and Evaluation, National Library of Medicine, USA
- 10.50 Discussion
- 11.15 Coffee Break
- 11.45 Future Development and Market for Audiotex Services.
Serge Lustac, Deputy Head of the Information Services Policy Unit, DG XIII, Commission of the European Communities
- 12.10 IMPACT Project TECDOC - First Step Towards Expert Systems for Blue Collar Workers in the Automobile Industry - Technical Documentation Databases for Repair Services.
Berthold Stukenbröcker, Vice-President, Electronic Publishing Projects, Bertelsmann A.G. Industry Division, Germany
- 12.35 Discussion
- 13.00 Lunch break

WEDNESDAY 15 MAY, A.M.

SESSION 4 : ROUND TABLE AND CONCLUSIONS
Chairman: H. Edward Kennedy, BIOSIS, USA

- 9.00 Round Table featuring:
- A Primary Publisher
Amoud de Kemp, Director of Marketing, Springer Verlag, Germany
 - A Database Producer
Ronald Wigington, Director, Chemical Abstracts Service, USA
 - A Host
Pierre Buffet, Scientific Director, International Relations, Questel, France
 - A Librarian
Ian Mowat, Director, The Brynmor Jones Library, the University of Hull, United Kingdom
 - A Scientist
Ferenc Mezci, Chairman of the Publications Committee, European Physical Society
- 11.00 Coffee Break
- 11.30 Round Table Conclusions
(Name to be announced)
- 12.15 Closing Comments
H. Edward Kennedy, President of ICSTI

TUESDAY 14 MAY, P.M.

SESSION 3 : NEW NEEDS, NEW TOOLS, NEW PRODUCTS - II -
Chairman: Kent Smith, National Library of Medicine, USA

- 14.30 Introduction by Chairman
- 14.40 Improving Interprofessional Communication in the French Construction Field: a Major Challenge for 1992.
Jean-Yves Ramelli, Project Leader, Program Communication-Construction, Ministère de l'Équipement et du Logement, France
- 15.05 New Patent Information Needs in the Industrial Sector.
Laurence D. Jenkins, Deputy Head, Group Patents and Agreements, The Wellcome Foundation, United Kingdom
- 15.30 Discussion
- 15.45 Coffee Break
- 16.00 Growth of the Literature of Science: Proliferation, "Barnaby Rich" Effect and Gatekeeping Patterns.
Tibor Braun, Deputy Director General, Library of the Academy of Sciences of Hungary
- 16.25 Information as Power? Scientific Information and Science Policy.
Peter Healey, Research Director, Science Policy Support Group, United Kingdom
- 16.50 Bibliometrics: Rigorous Inputs to Technology Strategy Decisions.
Richard Klavans, Professor, General and Strategic Management, Temple University, and Consultant, Center for Research Planning, Philadelphia, USA
- 17.15 Discussion
- 17.30 Departure from INIST by Coach
- 18.00 Reception at City Hall at the invitation of the City of Nancy

ICSTI

International Council for Scientific and Technical Information

L'ICSTI est un organisme international à but non lucratif qui a pour objet de développer et de faire connaître les moyens d'accès à l'information scientifique et technique. Créé en 1952 sous le nom de ICSU AB (International Council of Scientific Unions Abstracting Board) dans le but d'améliorer les services d'analyse et d'indexation, il s'est transformé au cours des quatre dernières décades en un vaste forum où une élite internationale met en commun connaissances et expériences. Tous les maillons de la chaîne de transfert de l'information - créateurs, transformateurs et utilisateurs - sont représentés à l'ICSTI dont les membres constituent un groupe international, pluridisciplinaire et à vocation multiple.

Les progrès technologiques ont considérablement modifié le mode de traitement, de distribution et d'utilisation de l'information. Ceux qui fournissent des services d'information doivent répondre aux besoins et à l'attente des utilisateurs. Le rôle de l'ICSTI est de permettre à ses membres d'étudier ensemble les problèmes qui surgissent et de trouver des solutions.

Le programme d'activités techniques de l'ICSTI évolue au cours des réunions des groupes de travail, des sessions techniques organisées durant les Assemblées Générales annuelles, de séminaires, etc. Les résultats des travaux sont parfois publiés. ICSTI publie également un bulletin trimestriel appelé *FORUM*.

Pour obtenir de plus amples informations sur les activités de l'ICSTI, adressez-vous au Secrétariat Exécutif.

ICSTI is an international, non-profit organization whose purpose is to increase accessibility to, and awareness of, scientific and technical information. Established in 1952 as ICSU AB (the International Council of Scientific Unions Abstracting Board), it has evolved over the past four decades from an organization which was initially concerned with the improvement of abstracting and indexing services, to a wide-ranging forum for the exchange of information and the sharing of experiences among international peers. All participants in the information transfer chain - generators, processors and users - are represented in the membership of ICSTI which is international, interdisciplinary and interdisciplinary.

Technological advances have brought many changes to the processing, delivery and use of information. Providers of information services must respond to the needs and expectations of users, and the role of ICSTI is to enable its members to exchange views and ideas on new problems and help find solutions.

*The program of technical activities of ICSTI is progressing through working group meetings, technical sessions at annual General Assemblies, seminars, etc. Some of the results have been published. ICSTI also publishes *FORUM*, a quarterly newsletter.*

Further information on ICSTI activities can be obtained from the Executive Secretariat.

INIST

Institut de l'Information Scientifique et Technique

L'Institut de l'Information Scientifique et Technique du Centre National de la Recherche Scientifique et Technique a pour mission de collecter, traiter et diffuser les résultats de la recherche scientifique mondiale aux niveaux national, européen, international, auprès des chercheurs, universitaires et industriels. A partir de la constitution et de la gestion de son fonds documentaire, l'INIST développe principalement deux types d'activités primordiales dans le transfert de l'information:

- la fourniture de copies d'articles scientifiques
- la constitution de deux bases de données bibliographiques multidisciplinaires: FRANCIS en sciences humaines, sciences sociales, économie, PASCAL en science, technologie, médecine.

La stratégie mise en place pour assurer ce transfert de l'information confère à l'INIST une forte originalité. L'INIST travaille à l'amélioration des moyens traditionnels d'accès à l'information, et parallèlement à un programme d'automatisation totale de sa chaîne de production. En particulier, ce programme associe commande et fourniture de documents, en ligne. En numérisant une sélection de 2000 périodiques sur Disque Optique Numérique, et en utilisant le RNIS, l'INIST propose l'accès direct à ces documents.

Avec sa politique de partenariat pour le développement de ses produits et sa veille scientifique du domaine de l'information scientifique et technique, l'INIST a un rôle international prépondérant. Enfin, partie intégrante de cette stratégie, une filiale du CNRS, INIST DIFFUSION a les droits exclusifs de commercialisation des produits de l'INIST.

Ainsi le CNRS met-il au service de l'ensemble de la communauté scientifique internationale le premier centre européen de traitement intégré de l'information scientifique mondiale.

INIST is the Institute for Scientific and Technical Information of the French Centre National de la Recherche Scientifique (CNRS). Its mission is to collect, process and disseminate the results of world research to make them available, nationally and internationally, to the scientific and industrial community. The Institute calls upon its large collection for two of its main activities:

- document supply
- production of two multidisciplinary bibliographic databases: FRANCIS for the Humanities, Social Science, Economics and PASCAL for Science, Technology, Medicine.

The strategy used to ensure this information transfer gives INIST its strength and its originality. INIST adapts and upgrades the traditional ways to access information while developing a program for the automation of its production chain. One step in this program is based on a fully automated online document ordering and supply system. By storing a selection of 2000 periodical titles on Optical Disk, and by using ISDN data transmission networks, INIST can offer direct access to documents.

With its active partnership policy for product development and its research in the field of scientific and technical information, the Institute plays a major role on the international scene, also as part of its strategy. INIST has entrusted the marketing of its products to a private subsidiary, INIST DIFFUSION.

With INIST, CNRS introduces to the scientific community the first European integrated scientific information processing center.

GENERAL INFORMATION

Exhibition

An exhibition on Japanese information and language topics will be held during the conference in the exhibition hall of INIST, next to the conference hall. It will feature the most important producers of Japanese databases, and distributors of Japanese information.

Exhibitors will take a variety of forms, from displays of printed products to CD-ROM and online demonstrations of Japanese and Western databases of Japanese information. Translation systems will also be demonstrated. In order to give delegates ample time to visit this important exhibition the opening ceremony will take place on Wednesday 15th, the day before the conference itself begins. Two extended coffee breaks of one hour on Thursday 16th, and another on the morning of Friday 17th, will also give participants plenty of time to spend in the exhibition hall.

A range of opportunities for advertising is offered: in the Conference programme, in the published Proceedings and as inserts in the Conference folders. Please contact the secretariat for further details.

Venue

The INIST offices are in the Nancy Science Park on the outskirts of the city.

Nancy has an airport, but it only carries French internal flights, and it might be more convenient to land in the international airports of Luxembourg, Strasbourg or Paris and to hire a car or take a train to Nancy (less than 3 hours from Paris). There are also rail connections from the major European centres.

A coach will make the journey from Nancy railway station to INIST at 15:30, 16:30 and 17:30 on the afternoon of Wednesday, May 15. Latecomers can take a taxi from the station (farc about 50 FF). No free transport is provided from Nancy-Essey airport, but taxis are available (about 80 FF).

Social events

Conference participants are invited to a get-acquainted reception at INIST on the evening of Wednesday, May 15. Free drinks and snacks will be served.

On Thursday, May 16, the Conference dinner will be held in Nancy Town Hall, situated in the famous Place Stanislas (18th century). The dinner will be preceded by a guided coach tour of the Nancy-Brabois Science Park, with commentaries in Japanese and English.

The optional social evening on Friday, May 17, will begin with a coach tour (with Japanese and English-speaking guides) of the architectural works of art of the "School of Nancy" period at the turn of the century. A buffet reception at the Nancy-Brabois Science Park will follow.

Accompanying persons

The town of Nancy is rich in art and history. Non-registered persons accompanying conference delegates are invited to get in touch with the Office du Tourisme, 14 Place Stanislas, 54000 Nancy (Tel.: (33) 83 35 22 41) for information on guided visits and excursions.

Extra tickets for the three evening events, or any one of them, may be bought. Please contact the conference secretariat for further details on this or any other problem, at:

INIST
Margaret Gulia, Conference Japan
2 allée du Parc de Brabois
54514 Vandœuvre-Rs-Nancy Cedex
France

Tel.: (33) 83 50 46 10 Fax: (33) 83 50 46 50



日本情報報

ANNOUNCEMENT

3rd INTERNATIONAL CONFERENCE ON JAPANESE INFORMATION in Science, Technology and Commerce

hosted by INIST
(Institut de l'Information Scientifique et Technique)
Nancy, France, 15-18 May, 1991

WITH ACCOMPANYING EXHIBITION, including online demonstrations

The conference has received financial support from the British Library (UK), Database Promotion Center (Japan), Direction de l'Information Scientifique et Technique (INIST) of the Ministry of Research and Technology (France), Commission of the European Economic Community (VALUE Programme), Japan Information Center of Science and Technology (JICST) (Japan), National Center for Science Information System (NACSIS) (Japan).

It represents a unique opportunity for everyone interested in the problems of access to Japanese scientific, technological and commercial information

The aims of the conference are:

- to debate academic and commercial information sources, both inside and outside Japan, including specialized databases
- to learn about the latest trends in information technology
- to discuss information analysis, distribution, use and acceptance
- to present new tools to help bring down the language barrier (including automatic translation)
- to continue this successful series of conferences

For further information, please contact the conference secretariat at the address indicated below:

CENTRE NATIONAL
DE LA RECHERCHE
SCIENTIFIQUE

INIST - Conference secretariat
Margaret GULIA
2 allée du Parc de Brabois
54514 Vandœuvre-Rs-Nancy Cedex, France
Tel.: (33) 83 50 46 10 Fax: (33) 83 50 46 50

INIST - Scientific Committee
Mikio HADON
Japan Univ. BP 132
75940 PARIS Cedex 20, France
Tel.: (33) 1 43 58 33 92 Fax: (33) 1 43 58 34 70

CALL FOR PAPERS

The Eighth International IFIP WG5.3 Conference

PROLAMAT'92

June 24-26, 1992
Tokyo, Japan



Organized by

IFIP (International Federation for Information Processing)
JSPE (Japan Society of Precision Engineering)
IPSJ (Information Processing Society of Japan)

Introduction

The PROLAMAT (old abbreviation: PROgramming LAnguages for MACHine Tools) conference is an internationally well-appreciated event for demonstrating and evaluating activities and progresses in the field of discrete manufacturing. Sponsored by the International Federation for Information Processing (IFIP), PROLAMAT is usually held every three years. The '92 conference in Tokyo is organized by WG3 for "Computer Aided Manufacturing" of Technical Committee 5 for "Computer Applications in Technology". After exceptional break of four years, PROLAMAT'92 will be the eighth conference, but the first to be held in Japan.

The current scope of the conference is not limited to softwares for machine tools, but includes the whole area of advanced software technology for discrete manufacturing. Roughly speaking, its scope has been extended from CAM to CIM in general. Some of the major topics of the past PROLAMAT conferences have been as follows:

- Advanced Manufacturing Technology,
- Advances in CAD/CAM,
- Software for Discrete Manufacturing,
- Software in Manufacturing.

The aim of the conference is to promote the development of research and advanced applications of manufacturing systems software, which include the whole range of product planning, design and manufacturing activities. Industrial papers, as well as research papers, are welcome in order to reflect the recent development in the industry.

The main theme of the 1992 conference would be "Man in CIM Systems". Computer-based systems are now being widely used for manufacturing automation, and many routine works in manufacturing can be carried out automatically without human intervention. However, there still remain many problems, for which human intelligence and physical activities are definitely required. Therefore, an important goal of advanced manufacturing systems is to integrate computer with human, rather than to isolate human from automated systems, and to realize a good working environment for human engineers that could amplify their original ability and creativity.

In order to achieve the above target, it is crucial to implement as much knowledge of manufacturing engineering as possible within CIM systems, and to realize a good working environment for human beings. There has already been a lot of work on product modelling, design process

Conference Date & Location

Location: Hotel Toranomon Pastral, Tokyo, Japan

Important Dates:

Abstract Due	Sept. 30, 1991
Full Paper Due	Nov. 30, 1991
Acceptance Notification	Jan. 31, 1992
Camera Ready Copy Due	Feb. 29, 1992
Conference	June 24 - 26, 1992

Official Language

English is the official language of the conference.

Technical Tour

After the conference, a post-conference tour will be made. In order to study the front-edge technology of manufacturing automation, some of the Japanese most advanced factories will be visited. Examples of those are unattended automated plants for machine tools and electronic products, and large scale CIM systems for automotive industry.

International Program Committee

Dr. P. Bertok, Hungary
Dr. Byoung K. Choi, Korea
Prof. J.P. Crestin, France
Prof. John R. Crookall, England
Prof. G. Doumeingts, France
Mr. W. Ehrenberger, FRG
Prof. Dr. J.L. Encarnacao, FRG
Mr. Leif Estensen, Norway
Prof. Gideon Halevi, Israel
Dr. J.M. Hee, Denmark
Prof. F. Kimura, Japan, Co-chairman
Dr. Torsten Kjellberg, Sweden
Prof. Dr. Sc. techn. Kochan, FRG
Dr. Zdenek Kozar, CSSR
Prof. F.-L. Krause, FRG
Mr. Riccardo Manara, Italy
Prof. M. Mantyla, Finland
Dr. Andras Markus, Hungary
Prof. Michel A. Melkanoff, USA
Dr. M. Eugene Merchant, USA
Prof. Rinaldo C. Michellini, Italy
Prof. V.R. Milacic, Yugoslavia
Dr. Laszlo Nemes, Australia
Prof. Gustav J. Olling, USA, Co-chairman
Prof. V.M. Ponomarev, USSR

Dr. F. Robson, UK
Prof. T. Sata, Japan
Dr. O.I. Semenov, USSR
Prof. D.L. Shunk, USA
Prof. Rene Soenen, France
Prof. Dr. Ing. A. Storr, FRG
Dr. V.A. Tipnis, USA
Dr. Nikola Todorov, Bulgaria
Mr. M. Tomljanovich, Italy
Prof. Michel Veron, France
Prof. R. Weill, Israel
Dr. M. Wozny, USA
Prof. Deng Zigong, China

National Organizing Committee

Prof. Y. Furukawa (Tokyo Metropolitan Univ.)
Prof. K. Hasegawa (Tokyo Institute of Technology)
Prof. Y. Hasegawa (Waseda Univ.)
Prof. Y. Ito (Tokyo Institute of Technology)
Prof. K. Iwata (Osaka Univ.)
Prof. T. Kishinami (Hokkaido Univ.)
Prof. T. Moriwaki (Kobe Univ.)
Prof. T. Nagao (Tokyo Univ.)
Prof. N. Okino (Kyoto Univ.)
Prof. H. Sato (Mechanical Eng. Lab., MITI)
Prof. K. Saito (Hokkaido Univ.)
Prof. T. Sata (Riken), Chairman
Prof. H. Yoshikawa (Tokyo Univ.)

Sponsorship

IFIP/TC5/WG5.3
(International Federation for Information Processing, Working Group 5.3)
JSPE (Japan Society of Precision Engineering)
IPSJ (Information Processing Society of Japan)

Correspondence

Conference Secretariat - PROLAMAT'92
c/o Japan Society of Precision Engineering
Ceramics Building, Hyakunin-cho 2-22-17
Shinjuku-ku, Tokyo 169, Japan

Telephone: 81 3 3362 4030
Telefax: 81 3 3367 0994

学会カレンダー

- (1)情報知識学会拡大編集委員会、1991年2月28日(木) 18:00～21:20、東京大学山上会館
- (2)CEC-CODATA Joint Workshop on Materials Data for Computer Aided Engineering,
19-22 March 1991, Peten, The Netherlands (延期)
- (3)National NET'90, 20-22 March, 1991 Washington D.C., U.S.A.
- (4)The Second International Symposium on Database Systems for Advanced Applications (DASFAA' 91),
April 2-4, 1991, Tokyo, Japan
- (5)研究ネットワーク連合委員会,JCRN(Japan Committee for Research Network), 1991年4月5日 15:00～17:00
- (6)スーパーコンピューティングジャパン'91, 1991年4月10日～12日、池袋サンシャインC.C、東京
- (7)情報知識学会担当者会議, 1991年4月24日 (水) 18:00～21:00、東京大学山上会館
- (8)システムマネジメントインフォメーションシステム会議、Systems Manegement Information
Systems Conf., 1991年5月5～8日、米国 ネバタ州 ラスヴェガス、Caesar's Palace; 主催者: Assn. for Systems
Management (ASM); 内容: 管理者向けインフォメーションシステムに関する報告; 報告数 (言語) 20件 英語;
参加予定者 1000名; 参加制限 なし; 論文提出期限 終了; 問合せ先 Terri Gibbons A SM
- (9)ASTM E49 Meeting, 7-9May, 1991, Atlantic City, New Jersey, U.S.A
- (10)ICSTI "Symposium, Squaring the Information Circle", 13-15 May 1991, Nancy, France
- (11)INET'91, 17-20 June, 1991, Copenhagen, Denmark
- (12)ASTM E49 Spcial Meeting in JAPAN, 15 July, 1991、科学技術庁金属材料技術研究所
- (13)1991年夏季コンピューターシミュレーション会議、1991 Summer Computer Simulation Conf., 1991年7月22～24日、米
国メリーランド州バルチモア Hyatt Regency Hotel; 主催者: Soc. for Computer Simulation (SCS); 内容 報告会 パネ
ルディスカッション トレイドショウ等 シミュレーション方法論、コンピューターパフォーマンス・プロセッシン
グ AI ロボット CAD/CAE/CAM 教育用シミュレーション 社会科学 コミュニケーション・リーダーシ
ステム等 ; 報告数: 30件 ; 参加予 定者 500～600名; 論文提出期限 終了; 問合せ先: Brian O'Neill. SCS,
(619)277-3888
- (14)ASTM : 3rd International Symposium on Computerization and Use of Materials Property Data,
September 9-11, 1991 Cambridge, England
- (15)International Symposium on Artificial Intelligence Based Measurement and Control(AIMaC' 91)
September 12-14, 1991、立命館大学、京都、Japan
- (16)SAMPE JAPAN '91 : 2nd Japan Internatioal Sampe Symposium & Exhibition,
1991年12月11日(水) ～14日(土) 、日本コンベンションセンター(幕張メッセ)
- (17)CODATA : Materials Database Experiences, April, 1992 Mascow, U.S.S.R.(延期)
- (18)Regularities, Classifications and Predictions of Advanced Materials, 14-16 April, 1992, Como, Italy
- (19)International CODATA Conference, 17-20 August, 1992、北京、中国
- (20)CAMSE'92,1991年9月22日～25日、パシフィコ横浜
- (21)材料設計及びプロセス工学へのコンピュータ利用に関する国際会議, International conference on Computatinal Materials
Design and Process Simulation (COMP'93), 1993年9月6日～9日、日本都市センター、東京